

そこにいないひとに会うこと 1

文／根本みを（集団たま。代表）

先月、ダンスバレエリセ豊島舞踊研究所第66回の発表会に立ち会つた。私が目にする数度目の発表会。相変わらず、しっかりとそこに立ち、その場を引き受けている子どもたちの姿、そしてそれを囲む大人の誠実な眼差し。そのような機会を得ている子どもたちへの少しの羨望とともに、いろんなことを考えさせられた。そうして、いつの間にか深くなつた、このご縁についてを想い起こした。

—当時、演劇専攻の学生だった私が、モレキュラーシアターに出会つたのは2005年。『f/F・バラサイト』（1986・89）の記録映像の中だった。漏斗をかぶった学生服のパフォーマー、ドレスを着て透明な棺の中に立つ花嫁。引き攣れた発話で読み上げられる手紙。一見するととつつきにくく、ぎょっとするようなモチーフ。けれど数年前の粗い画像越しにも、その演出はとても丁寧で、はしばしから、その作品の持つ誠実な批評性や、切実な要請が胸に迫つてきた。それから数カ月後『O-HIO/CATASTROPHÉ』上演に立ち会つた。『f/Fバラサイト』のある種の饒舌さとはまた異なるアプローチの、端的な構成の舞台。どこから出てどこに行くのか。どこに立つのか。どこに光を当ててどこを消すのか。どこから声が聞こえ、どこでなくなるのか。ストイックな舞台と、明快な作品構成の中に、「演劇」というフォーマットの持つ本質と可能性が凝縮されているようだつた。

声高に物語を語つてしまつと、こぼれ落ち

のを、丁寧に拾い集め、耳を澄ませ、ひたすらに目をあてる、そんな作品だと感じた。

以来、モレキュラーパンはもとより、ICANOFF展、リセ発表会と、毎年のようには戸へ足を運ぶようになつた。その度に、どこまでも慎重に制作される作品に胸打たれ、様々なことを熟考する機会を得てきた。ご縁が続く中で、豊島重之氏の評論集『一日散』の編集のお手伝いをする運びとなり、昨年、あらためて氏のテキストの数々と向き合うこととなつた。そして、同時期に開催された青森

ICAANOFF展、リセ発表会と、毎年のようには戸へ足を運ぶようになつた。その度に、どこまでも慎重に制作される作品に胸打たれ、様々なことを熟考する機会を得てきた。ご縁が続く中で、豊島重之氏の評論集『一日散』の編集のお手伝いをする運びとなり、昨年、あらためて氏のテキストの数々と向き合うこととなつた。そして、同時期に開催された青森ICAANOFF展、リセ発表会と、毎年のようには戸へ足を運ぶようになつた。その度に、どこまでも慎重に制作される作品に胸打たれ、様々なことを熟考する機会を得てきた。ご縁が続く中で、豊島重之氏の評論集『一日散』の編集のお手伝いをする運びとなり、昨年、あらためて氏のテキストの数々と向き合うこととなつた。そして、同時期に開催された青森ICAANOFF展、リセ発表会と、毎年のようには戸へ足を運ぶようになつた。その度に、



音楽家 根本忍〈豊島重之・声：モレキュラーシアター「マウスト」〉の音響構成による（「あかし展」）

県立美術館「あかし」展。
豊島氏のパートには、

『直下型演劇』のセノグ

ラフィ、演出ノート、
107点に及ぶカルト・
ポスター、音響インスタ

レーション等。また、関
連企画でのダンス公演。

すでに豊島氏が不在で
あるにも関わらず、会場
を回りながら、また公演
を見ながら、テキストに

触れながら、むしろ今までよりも近くに氏の存在を感じ、そのひとに出会い直しているようだつた。

そこにある「不在」に立ち会うこと。その場にないものにこそ目を留めること。ほとんど聞こえない、微かな声にこそ耳を傾けること。あらためてそのことを、耳元で囁かれ、問われているような気がした。

（つづく）

●筆者近況

2021年、豊島重之評論集『一日散』の編集協力。常日頃は学術系の出版社に勤務。シアターカンパニー「集団たま。」にて代表を務める。次回公演は2023年の2月26日、徳島県徳島市にて予定。東京都在住。

第45回民俗芸能の夕べ

八戸市内の民俗芸能団体が一堂に会し、磨き上げた芸を披露します。
【日 時】12月3日（土）13:30開演 【場所】八戸市公会堂文化ホール
【料金】無料 【問合せ】八戸市社会教育課 ☎ 0178-43-9465



第10回南部弁の日スペシャル はっちがずっぽど南部弁



ステージイベントやトークショーなどで南部弁を楽しむ日。詳しくはホームページをご覧ください。（定員）はっちひろば、シアター2:各70名 ※シアター2要整理券（はっちインフォメーションにて11月1日～配布）
【日時】12月3日（土）12:00～20:00、4日（日）12:00～17:30 【場所】八戸ボータルミュージアムはっち 【料金】無料（整理券が必要な場合有） 【問合せ】八戸ボータルミュージアムはっち ☎ 0178-22-8228

南部弁の日

南部弁ばなぐしたぐねえ 残してえじやあ！ 笑って、へななく、感動のバラエティショー。【日時】12月11日（日）14:00開演 【場所】八戸市公会堂文化ホール 【料金】一般前売2,800円（一般当日3,000円）、高校生以下1,500円（前売・当日とも）【問合せ】スペースベン田中 ☎ 080-6025-0990

演劇空間 スペースベン

～演劇好きのための、演劇の場～

※特別番組以外 金曜日は19時30分～、料金は一般前売500円
大学生以下前売200円（当日それぞれ100円増し）
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、
ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい
八戸市柏崎1-11-8 TEL:080-6025-0990 FAX:050-3588-8350
E-MAIL:owner@spaceben.com URL:https://spaceben.com/



FANS

FRIDAY AMUSEMENT NEGATIVE SHOP
FANS予定▶第1504～1508回

かたり場など随時開催しています。
詳しくはホームページをご覧ください。

WHAT'S
“FANS”？
多目的スペース「SpaceBEN」にて、毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円／大学生以下前売200円（当日それぞれ100円増）